内海小田氏記

特別
へ13
3633
43

へ13
3633
巻43(16)
特

昭和三十二年六月八日
宮川曼魚氏寄贈

序

二上りはいるさるぼう曰手鍋さげてふと
ほゝ〳〵ど實ハ癖〳〵や玉の
輿〳〵豈酌女も言なんや
其手綿摑るの姿を玉の輿も
勝る心意氣をさりぬるひ

坂田治郎
村上文庫

序作意のぬ河内川の豊倉
城見面つと仕磨生達磨も古石
ゐこ手子曰君子と中島町
ゐ小経平よ〳〵ん鳴辛三河橋の
料理審の甘口も大津橋
の小ゐ鹹も味ふる者は求み

味をうけて序の二丁形す
変爾。

開東米誌

自序

色好ざんハとゝ。日本ハ放蕩家。傾國ゝ持ゝ。漢土の狂貴家。貴妃が淫婦。奥塩ゞの醜女。薄情愚意心實。ゝも。衆皆皮一牧の戯なゝどや。蓋ハ義理一遍の通

情を。結句心ハ。ゝ。種。割ゝ見せゝ。ゝ女郎の腸。呑ハ姿の江戸子ハ根生賈ゝと。酔道の真ゝ。酒ゝ。一寸南鐐一篇ハ。を着し。金の鯨簡版打ゝ。諸君子ハ覽み呈ゝと。元来戯諧の書ゝ雖。敢

悟るの捷徑ハ人間パテ足下人間
一生曾生の夢。楽しミ僅二十年。
ナソレおちゝの内と云爾。

于時戊午春 物仕舞碧百
於三河樓見遍 式亭三馬採筆

凡例 述意

○ 先ハ雷名乃諸先生東姥南呂北廓西娼乃遊里
小説を著述し。滑稽妙文普く海内平震ハ其穴を
穿ち夏高ハ高慢ハ鼻。虚空先天乃至ハ。低く八粉
町乃井戸を浚ひ。混沌那落闍羅王の天窓庫に於て短
才乃小子等。書せんとする筆頭乃文神ぞ。依て今
諸君子乃非言をふ顧。各家ハ糟粕を掌ち。平ぐ分み
應ハ〻る新市場乃世東に着を。文々くゝく肴合せ

千磨美

手折まゝ
花乃
折言中
靈賢像
三ゟ

ざるハ覽者乃增按言を弄ふ而已

○此書乃麺女郎一人千三客乃意味を穿ち嘘と實乃迷悟を示さ然と雖東曲通乃覽ゆ呈さふハ非ず

○廓通乃目ゝ見バ外國夷狄の如くなれバ言語をおさざんを小夏くさんを耳立バ其鄙俚を笑ず○舟宿鹿。私ホ乃類ひ其侭ゝ半て片言乃誤を正さず唯有容ゝ乃ゝ三太郎權七ゝ與ゝる而已

巳上

嗄羅哩樓主人戲著

發端

慈別ゆ後朝。ゲ。ホ。郎ひふ別の撞。間夫ゆ女郎ホ要まゝ。ゝ。ゝ。

所渭戸橋赤町研樽相の〳〵列國を引て伊勢。
古石新石の鎧昌。十ム里地別客品有。平代橋
と共うし長〳〵扶と。一ト切藤ひのいと張きる。
遊子絶通。ヲツサ押せ〳〵橋ヲ有千〳〵ふ〳〵く。
闇手ち〳〵有頂天昇り結み、遊孫乃
まん中氏取ナ〳〵。トツチリちんと身ハ落せで。
食客乃種八さんと形ら変見則ハ道の碑ハ
身と喰ふ諭のごと〳〵。ヲアみ千金の角屋浦。

朝ハ◆男山ハ重義さを通と不通乃
沢合なず。鬼角世界ハ仲因近江ガ積細工
のごと〳〵。家み郡来る接人ハ中通い下れ
人扮ふ〳〵。接留青梅の店茶ハ。屋舗通ひの
初別ハ〳〵。年〳〵みニ〳〵の赤飯ハ。
節二星の契りみやけとべよ。彼放蕩家共
異豆結藤豆ハ西施を〳〵。チョン〳〵幕の
楽と。〳〵ハ〳〵ハ〳〵ハ未至通の貧君子。

價安くして喜見城の思ひをなす。逼
両三個の妓樓を物見ハ哥の謝安ぐ東山
み新狂言を延て出ずと。中ふ下ふ
高ぶりの自ら殘湯の湯氣千上ふる。黄色
ふ湖来み湯を面を恐させるを徒湖来を
ゆく克ビハヨウトウを度。新を汲てよく
スワッパリを報せと。ムム世界乃風土といくるハ。
長賛羽織の細身指。黒編笠乃ぢのち

屁を吉くまとゆくるきんく姿の青樓風を
痩し。或ハ洒のよ拭を肩ゆ付。花色繻子よ帯
臭ゆ口み結び或ハ前垂櫻千ちゆ。丸顔の
大根杏。客人ゆ將永頭ろ。永ゆとセ口ゆ。
客くとこく。大きみ賓主ゆ礼を亂しく。
二上りの謡唄。みごぎんの程もなく文ぐも
肉乃ぢ首尾の程と。みのさ紅同乃口紅ハ。
萬客掌とちゆく。行客乃弥ハ

絶ぜて志ゝと元の客ふあゝず。流ふしぶ
門卅乃旦切る。旦睡ひゝゝゝもいりぐ方丈
の文ふあゝ紙ど。實ゝや振ふ般若花の地
寄と名ふあふ猛舎の大磯小磯化粧阪。
ゝとけくゝ名ゝゝ紙乃宿。恋の船着の
濃。新地の堺み漕ゝ。一艘乃柳部ふ紅。
新市場乃橋の下。州ゝ常ゝゝゝゝる處ゝ。
ゝゝゝ吉市場の方ゝゝ来る。贈ゝ舟乃

潮来西落。名ゝしゝ舟揺ゝ合ふ舟と紅。客と
客とゞ見合ゝと顔。掬みぞゝゝり。ゝゝゝ
落ゝとぬゝ燈灯。今のハ燈ふゝ掬と腕
「ム ゝれふ。チョ打柄時と
舟ゝ別ゝ チリチツテレ跡白波みゝ面色
チツ。チツトト。

四ッ明の柏子木

四ッ明の部

品目

ふこころかゝる段
うまくまる段
むつんみをてゝ段
附り あくてん遊び三人一座の段
女郎買の客三人まぐの智恵競

石場妙演 辰巳婦言

式亭主人著

半夜鐘 ボヲらく

本書柏子木 カチりく丸ちまくく

バタくトらくたる料理番の頭板を良喜ふく

くく検橋の声灯屋くくアイ〜りの返河岸ふ

だらくを曳て舟頭の魂廊下ふ納く勘兵衛

屋ゝ力樹のだらくお客ざよりち美青忽ちみ

軒眠と長て柿新の工ぢ傍み熟林臭き

紅葉の紅葉あれば恰と菓盤硯蓋小等しく
蒼所み菓と乱し嵐天井み踊く料理物
とる場と蘭し書く酒ば波風見通み書く
高潮よの乙喝哥と風鳴蕎麦の高小淋茲
麻言の掛合と視合く舟宿の見さん色変
の四郎部屋言ひ出ふ麻番のお新麻芋楠を
行寄せ豊西と温く呑む時分遠小米相場の
遅ひよたの男ふさんの主ひませうの狭れ

簪く変小実まるハ九一ろ

客義素

鎌倉古市場二川屋は二階と月くく客と
婿娘の見向ひ叙暮くさ管乃意説

行有海鮮川あくうの海同屋の伴孫と見くく年八三十ゑ六寸位
さんてまくくえへ玉月は去の上見ぬひて数名の上へ入りうあけ
見ゑも洗ひぎの嵐ゑ一ひうきもゆ人きぶひ八の加くゆ紬の下ゑ二つ
ゑぐ〜恵のてんゑうらせんゑうのちくめんゆ油猪伴よゑうんと七子
の帯ゑうくとおて結び越川仕入たゑ抑りのゑたとへむ中八九角位
のちくゑん懐川と入こ一ら八無月鉄きびそきつぎの狼きせてそう手森を
くゆ一せくゑと上ケ あゑて居る

中場茶屋

家の門の板のとえ俳て元やにようて板うらとい家ゑ
青樣ゑの一場くくとうりのゑく見ハいらゑとはそんるゑんと

[illegible]
の三すじ立のこりくすると下長八寸ばかりの紙條
ひちりめんの白縮りのてんぢりむ長ありてひろく嵐の二重ぶんす
の帯をたのあてあんざうのそはふすりうけはついくけはまんかうの
ぶくさぐるをぞりしかん
ざでさーこんである

[illegible]

すじやア縮るんのころと庭下を引くられちんこ切り
すこ絵の虎じやあんめーい。口上書を出りく義おへ
をろくるやるで掛りろくも縮

[illegible]

まりでごせんをかぶちや烟風を抱てこ[illegible]
おろかんざうをいひろの屋へさせ。ソウ又穴の穴まで

ろくぞくパをたのうくきっせやせふ

[illegible]

さとよ。穴と堀るのろれをあのと。水場の能をう。場接井戸
の地をぶ。ぶくーいきれら。ふきぐーひ

[illegible]

何ぐぬさぐーひ
ぐ。ぶれ。ぶぐ。ぶをぶちるぐ。ぶくーぐまぐ。ぶれ縮
ぶ。ぶれ。ぶぐ。ぶを。ぶちるぐ。ぶくーぐまぐ。ぶれ縮

[illegible]

ぶくーぐれ。ぶを。ぶ分ふあやふーけるぶ。面白くを
縮ぐーぐーぐちやーぐぐーぐをぶ嶽ぐぐトすこ。ぶぶぶる成
ぶぐーぐ。ぶ。ぶ。ぶ

八天神様びのまつりのんちうびとんのうんざーさらりさーさーふうさ
ー　和尚のつげのくーはらーこれわい庵主様のてふり盃
さまぎーく廊下とと　　　

ハテすれてをいてるモウ行るどやアれまうト一ぺい
[illegible]
[illegible]ハイこりやあ[illegible]さん[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ふ[illegible]良[illegible]く。扨[illegible]を[illegible]
のぞあり[illegible]と又[illegible]ぐ[illegible]ら[illegible]ぐナセ男[illegible]
[illegible]外の[illegible]ぐ[illegible]られバとい[illegible]
いこと又命といふくまひ[illegible]と[illegible]さんの扨び
[illegible]と[illegible]。[illegible]と[illegible]ちゃ[illegible]
わく[illegible]めと[illegible]の[illegible]さんぐ[illegible]
つ[illegible]ちゃ[illegible]ぐ[illegible]
扨[illegible]ぐ[illegible]。[illegible]

[illegible]天[illegible]干へ[illegible]ぐ[illegible]ある[illegible]。[illegible]華[illegible]織[illegible]と
こう又扨[illegible]ぐ天服[illegible]ぐ。[illegible]と一だん怪[illegible]
仔[illegible]ぐ[illegible]場[illegible]。成程[illegible]ふ利[illegible]乃
程言[illegible]ぐ[illegible]と。嵐[illegible]たて[illegible]ふ[illegible]
あ[illegible]ぐ[illegible]五匁[illegible]ぐ扨[illegible]ぐ[illegible]同さ
[illegible]と嫁[illegible]の猫[illegible]を[illegible]ふ[illegible]視[illegible]嗅鼻
と[illegible]ぐ[illegible]付。化[illegible]の皮[illegible]ぐ。[illegible]ぐ[illegible]今
扨[illegible]ぐ浮世[illegible]と[illegible]色[illegible]呑[illegible]ぐ[illegible]

ゆハ何ハとゝぎす角ハうぶ附木板の角ぐさ孫くハ
ちゃ。ちんこゝろの弁釜ふるゝ。拂扇笹が首蒲茶
化るの料理場の蛇ハ見ハやゝひ庄の出来合年オ。
志ゝと料理番のふなまちゝたるとこゝ〳〵ちよろ
ムア。むゝ地獄のうぐちぐナント世界ハうゝひをんど
らふサァゝふぐ返河と志やゝ兵ゝむひく仔ゆを
いゝびの拙半ゝぐゝと世うせェそんゝ志ゝちハ
切蕎麦ゝと橋茂連乃ジャ〳〵ハこゝ行くゝ

ムれどゝムゝと大のムゝとの孫くゝ茶ゝ志ゝたゝく
左交と五羅ゞを松ゝ夏ゝ新ゝ狸ゝ。ゝゝ訳ゝが
化狸ゝ働ゝふゞ。ムゝゝゝゝゝ男ゝゝ孫くゝ。ゝゝん
ゝムゝゝ。ゝのゝれゞ中返ゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ
と志さァだゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。

芝居の魂をとで弾で洗さ月とゆやとんでとさうきけさり井だ〆
のつべさまあうけ。

[図] 成程物めくのいるもとをとなかちゃ一つく
ぢきさけれど又つとさうふういつ月をとちけしとハ
ゆのさとさんんせく。そうやゆめくあんまり搗ねど
いくさとんでこせず。つとはみとゆなどに猪とをなる
う〜 [図] 抽きやうれいくことだうう燒のとをとれ
つとをとをまちまとモ少 きう稲工 [図] ハテ とんるふ
ちゃ〜どふゆをんくちのんが去がれくつとさいぐぬる

とんぶつく相題ま車といよ抽ハ持て手拍やもとヨシカエ
今物めくのいるもるぷ。ちきさんといく客人ハめど
搗の大こ弓源さんら運て来く。初の時〜〜〜く
ちけとつとあのいるこをけく。船宮元さし嘲人今〜
いくこ実ぢ〜あで引潮ふうり中さて五ぶて
おめくと芝猪の事ぢうら。何を外の客人ハ芝猪と
実をとを〜さとハぶ〜せ人。そりやうけちあて
あく。山初仕舞とるのむゆを去のさいるナ倍

通りまもなく程なく身ごしらへ。客人はさんぱを
みて。注ぎ分けてお待ちかねられるお方も程なく
始めて了 蔵ちのんぐ扱きて。お待ちきてを。正徳
でき程なくと。見こまれのこりさやりくりぐのこさが
古市くり秋石切く者う家人で仕が何人その内
よりもあり。見くがふせ玉。生まれちごもく。ひとこと
の内の娘ちや宮の扱ひ扱ひ。どこの内じゃ
大入景気がいいの。蝋燭油ハとを程ちうふと。

ちうく行の穴の宮まくちあるる。雑ハ大徳所のむき
を変の出場と切く事。日が暮れハ白奥乃箱と一応
小一年三百六十日。内ち祝る歌を踏びと山ち歌の
半ちを乃天秤絨ぢれて。貢物いさめ屋の先
へ稽古みぢこ乃ちの男ぢ。是程ちは合ぢを
心いきハ吞西祝ぢ。こんちを歩て見られちゃ牧
山振ち扱ちとんなさ。振ちとすまび振さ刺く大平
さいけてとちをぐ五ーさあてのほハ常のでくなれバ扱ちをふ
人のとちとさちーちさのを扱ちのそこ面へ

仕ごく意味を重のかきようなるとあつはをけあくるいすのうちまつ
の孫ゑるまをせるとゆく大佛とのれバはいふ一つのおそ一定為めるる
さるみるさ世をあつれもちん 区 扨めくのあつ子ぜんいちふあはくるのくる
さのちやとあをとつくれくぬ一の心いれハそふうをといる
程でと姫生れをといをてさァ。ちり切く長やさァ。ま
ぶつくつ又このちつ乃心をちつくふんぐんなせて。
こをあやつくふぐ遊まくのろハちく程くが。新市場の
共国屋とあ一ふコろハさる代ぐ有く。扨めくと
原くはあとくあ一さ。それとあちやうんぐ

ちろ祝くぶ子ハてもホンニちをぐと後と意くあ
思ぐを後る番頭といあとんぐう。ろぼの番頭
を扨めくを恨むをハこぜくぜんよあやをふい家合じを
ろんるをと祝ニ女ふ言く歌くんなるいと有めく
言ぐでいつを考をハさくを人をろれり生を
某さをとをぐコをふを恨んで扨りをとトのをを
を時ハめりをーくハうぐぜんと仏をんそんなのエァ見ん後くする
有さふを考ろチをめくハごんをぐとををいるてを行り

ちゃうべさんとうぶんぜんぶ助ぐるとうぞくろうにん
イヤサぞうしゅ涙をぐ抜きを出者うするモウくく
もとりやっ猫でしぶ涙ふいるぞ何ろうとかぞう
ちと縛ってふ声ちょとんぐあめ 巳 そりゃあ抜の
でと縛いぐんさぞ出ろう抜のうを者をしょんぐろうね
義理ーかんぐ廊中ーさぐ見ぐいく根をんぐく
くりやっこんな抜めーたくさんぐぐせすいる
巻 ソリヤアちゃぜ 巳 ハテ初仕舞と頼ってもみとも遠

て人も鉄けっちゃはいたあと七あハいるとんぞう
又いかちろう咲さぞろうさんの病まぐ今ふあ
ぞうまぬいくく人参の代ゃ傾八五程入用ぐ
くぞ手ごとうきのくろうとユ回ーてんれといく
ぞやーさいン抜めの方ハ来ぬりかと弱果ぬを巳
ぐぞとりふ巳巴寒ふはをさぞ人をんなぐ言
ぐとをろとこのざんゃ抜あくく乃働ぐろうさホンニ
うろいぐちのとい不便ぐさとのるさろう猿さ五

[illegible]
[illegible] 茂 [illegible]
[illegible]
いめくまくるの孫くいてよ一鮓又[illegible]
くくるやらくさんぞるとまく[illegible]
[illegible]十あが十五両でとたくしまと抱れば[illegible]
その代[illegible]あくみジすのでやと寒[illegible]
くくまと幸年よくくうのちくくやや十両ごと

もしまねばいくくト[illegible]
そくいくなたる程どやと今六をくやを[illegible]
ナづよ金ヲ書せねくはらぐやりのこのぐいや
でとのるし又はくぐ方くのつくとたくめく 己 そやや
ねめく蛋痴ぐ沢合ぐくぐやとムぐ
すくやせん 茂 すまあ[illegible]の肉ヲとだぐ行でと
さそのぐくはくまもとくくく洗濯をくん母やる 己 洗
濯とくよハ[illegible]山彫物をけくく仕事よ 茂 笑ひとかくて

そりやうぎ〜ぎとて撥ふまうこ。ぎて〜そいつをけまそふハ
ろせをでもとりまぐ〜ハりめく 已 きつい去年去ってふいと
去そけ〜り稼るものゝ（ト箱て用意の桶の〜出〜ゝて切丈をとり出し色と欲ふ縁切丈あ〜きハ女〜ゝ）
ちこのかゝる切丈ハ色〜と去のぐゝる去ハ色を今まくとにの内ふ
ハ唱名ちゝで十まく〜とゝるくゝぐ〜ぎりとすくけて去まふ
已 ゝあ〜りゝ〜ゝさアよ〜〜ん〜ゝ世〜〜（ト右さ生）羽 ムよし〜〜
遺（ちゐく）ねエの去中ぐ（まんなか）ぎ（それ）でぎゝ〜ゝ〜ゝ〜

ぬすまんぐらどーまたはびかりとうとうそうとやせうとどや

下ノ字ノ字ノすまとの二上リを飛ひまーく 角 おとなさんの歩てもとのーう 豆 おりく

さんう這入れくま 角 ほうとと明けとすれ 又 ぎまびてくもこんのホ

どもかーびりくとらくる

あるねエいけどみくーの傳まどぞヨトをさアアヨや 義さん

すぜぐんすまでぬ生なるエ眼ででぜすまこよト懐よでえぐうらう

きうりぶかくくとして表ぐんでるそ内ぬとおいきせるを出 義さ傷が

烟草とほいであんぐうう奥徒ゆく紙へちりくとゆて出て お用ハ二

ふくくくてまひあんぐうの表くちくく

以内義さくハぐんすまとのいぐまさゴウ

浄ぐもすさあひこれんちゆんさ 義 ゝゝ奴ろ 角 いや

ぐのゝ奴とんあんぐんさ新宿どやねヨ 義 そんあのぐんや

う 角 きうい表れさトきせるで孫なる 義 夫でと来代用ゝまうハ

ちちぐぐいくと掛取ぐ利へぐ義ねう 角 ヨやんぐりーい

いろんなとこなる孫エきい抱ぐ。うのちあって盃

なんんーヨトを出 義 ヨ出ハ右ぐ兵今右の三ハ右方の

うる客ゝとのせくぷ水車のぐくぷ抱三角ぐくと出ぐ

コリヤ娘ヨアイーといるみ美味の五ぷ仕さ客がぷうぐ

くーて待ぐ張ぐらう 豆 ヨモウ ゆうあーいナウト おっ法が

みなうしだきんなせくしゝ。ゆうまし
くとそみねへ（上せみとをみがん
うらうとそゞる）

友 あやまりくいうゆきのかんざゝぎ（モウ）稲ゝく
（トキニ）扨角さん今駅の客人ハ加ろ 園 イエ 爰 蔵ろ 園 ムレ ニエ

友 何のこゝろ天川屋の伊吾ゝ大隆ゝの朝気ゝと来ゝく
いる 三人 ゝゝゝ 之 義の新屋ハ徐ゝの山とんざゝ多ゝハ

角 アリヤア扨ゝさんの客人さ三人一生ぐゝ世ゝゝ廊
（うらんび）下ゝるぐゝらゝ門をいやぐゝゝるヨ 之 ゝんぐゝ扨ゝ臣
くゝやゝゝるのゝ（ト枝ゝのゝ紀ゝ三人のゝゝゝ）曰く

後堂貧客三個文席段

中度補三人新床ゝく床納ゝく屋風の内ゝ塩ゝ天寝ゝ切り歩ゝく女ゝの寝ゝぬ解ゝ三ゝの
ぐゝ返ゝ雲のゝく紀ゝ行ゝ屋ゝ八医者の内ゝ子ゝ行ゝく屋ゝ八張体景ゝ声新ゝつゝく内徒ハ医療ゝ引ゝ草傷ゝ新ゝ字
解ゝ雲ゝ雲ゝ行ゝ仁ゝ行ゝ三ゝく三ゝ歩ゝ行ゝ切ゝ接ゝ三ゝ〇新ゝ記
新ゝ言ゝ言ゝ語ゝ行ゝ紀ゝ行ゝ行ゝ行

ゆれちりせんらんじゃのね蔵ハ甲の女ゴあ[illegible]ゴ是あさとの[illegible]
ゆさ紀友こ古織の丁ゴ[illegible]茶の上ゴ者をぬいてすその方へ亞お紙ア
返一小紋の下ゴよゴ[illegible]の[illegible]海ゴ[illegible]の繻ゴ[illegible]
玉ハ文乃帯ゴ[illegible]
のセルボとつりくせ有

東吉 医者さ乃玄関ゴ[illegible]編笠の上ゴ[illegible]
ゴちかゴ[illegible]ゴ[illegible]
ふゴさゴ有りおゴ[illegible]
ぢゴちゴ[illegible]

庁達 陳屋の西雅人娼婦未至是何の間ぞやゴ
嗚呼甘嘆腹中大ひふ丸山乃豊心丹ゴ 吐逆キト

モシちりと古ひせうぬゴ[illegible]ハゴふいふりんゴの[illegible]

あるゴ[illegible]ゴ幽霊ふうゴ[illegible]ゴ[illegible]
くゴ東ゴ今母の[illegible]ゴ[illegible]の
いゴ[illegible]ゴ[illegible]ゴ[illegible]ゴ[illegible]
めくゴいゴゼ 庁 うゴ[illegible]
ゴ[illegible]ゴ[illegible]ゴ[illegible]ゴ[illegible]
[illegible]ゴ[illegible]ゴ[illegible]ゴ[illegible]
ゴ[illegible]ゴ[illegible]ゴ[illegible]ゴ[illegible]
ゴ[illegible]ゴ[illegible]ゴ[illegible]ゴ[illegible]
ゴ[illegible]ゴ[illegible]ゴ[illegible]ゴ[illegible]
ゴ[illegible]ゴ[illegible]ゴ[illegible]ゴ[illegible]
ゴ[illegible]ゴ[illegible]ゴ[illegible]ゴ[illegible]
ゴ[illegible]ゴ[illegible]ゴ[illegible]ゴ[illegible]

すつい天住ぐらくどやァ此合ごうとう稲エトロ
わどき世る　吹　ヨウ　宇達さんちゃとろうちゃ才まる世く　宇達ハ桃の
をたゝく
四角でハのゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ふとゝ八ゝのせて柱を
一ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ハ寝ぶ物ぐゝ為ゝ為ゝ為ゝ為

醜女彼俗ヨリ云ヒ来ラレザラン 東 デモノノ下ザラ
マノデトレネガラ人ちぶのハ首ノ下ノ紙ガ妙ニ逢サン物ヨク
見ユル 吐 大キ小サ 備後国ノ名ヲ蘭風ヲ下ノ下ノ
首ニ 庁 イヤ〳〵如言〳〵ニ山村ヒ人キヲ 吐 逢ガ如ハ 早 ヒ
ヤ〳〵花ノ古ヒノ
ヒ出テ 吐 早 枕名代ヨリ別深ノ客思ヨリ
出ヲ〳〵ヒイ〳〵ヒ 庁 イヤ〳〵如言〳〵甚歳潤稼ノ
大ヒヲ実ノ実ノ事ヲ了ガニ 東 愛ノ比ヨ〳〵紙ヒ
ネヒ〳〵ヒ〳〵ヒ〳〵ノ金銭ノ古ヒ今形ヨリ

ちやア名桔ノ義理ヲ意。嬉ヒ嬉ヒ 庁 ヒ〳〵如言〳〵 吐 ドレ〳〵ヒ
紙ヒ〳〵ヒ〳〵ヒ〳〵

出て一とせ[illegible]のサ恰と竪板作り小便と
するとそこらへさら〳〵 吐 大笑ひ横板泥をつかしらア
片 コウ 家の内とめんうまぶるを代ハ福くゼニ拾ふ
たしあがりてなそとして雨をいつら拾ひ〳〵ゆきさんぞう
解もなへ〳〵その酒ぞ〳〵と茶の苦ちゃ雨と酒乃
蓋ゆきさんちゃ蓋ひのあのそばうとコウいう
わエとうとう寸頃の世裏拾つしまさわく見ハちゃ
吐 〳〵エすぐつちゃ又拾めく日大帝しゃねいう

床 チト 義りてくま 片 俗俗ちる丈八五六日いすのの
てきさ両三個の紅女と寸る尾よ鎌のゆきそぐ門と
北方〳〵飛ぐ毋〳〵そこで拾ちる紙なるこぶいのあんざ
ちう丈をとさしる丈ハモレでて紙さ 吐 〳〵いつて
ぐ〳〵定てサあ〳〵ぐ〳〵 片 ゆきそく床の内ハ初金ゆきて
ハ拾ゆき〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵九日と拾わく〳〵ちゃ〳〵〳〵
その〳〵世國も丸花物イ〳〵ゆ拾ての佳人さ 吐 〳〵有て
く 片 大きゆきのうゆきゆきく〳〵首をゆき黄いろな
ゆきく〳〵ゆきてゆきゆきゆく山内床ハ一向

[illegible] 片 [illegible] 両度面の清[illegible]ある歌妓幇間こゝ
[illegible] 虚延を交[illegible]トナラレニ[illegible]返り
の大どん〳〵流石の大厦高堂出佐の大住[illegible]
[illegible]イヤモ[illegible]僕大酸紅佐[illegible]美のとして国度
入中[illegible] 吐 そこでぐ拙あく乃名白磨編が[illegible]
中[illegible]ふ[illegible]

東 その業もいら今宵ハ[illegible]モウ なんの門の筋
ぞ 吐 初命毋ハ[illegible]
[illegible]の呉信のめ[illegible] 東 あ[illegible]女部やう[illegible]
[illegible]
[illegible]れて[illegible] 片 個[illegible]ハあ[illegible]
東 [illegible]一[illegible]ん[illegible]虫[illegible]コウ
[illegible]ヤナ。彼[illegible] 吐 [illegible]
[illegible]「[illegible]」を出る[illegible] 片 こ[illegible]

そんなるまつ先へ 東 ライこゝろや 三 にをゝまさらで
チヽケレ ゝゝ ムヽヒヤ人ト 吐 ハ所 恵幕 そひ三重 宇
大臣様ホ様の立未有リ 東 蛙の帰るを寝るの笛 ケ仕
吐 モウト 「七義」とるゝまくりわく志「ぐる」と取て志 裸
をいでこゝろ利もやくかゝ必さくせる兎角せ打立 ものあ
支でとは須ハ「こゝまざるゝ」「けすん」とめるゝ「ゆるゞ
かゝまトハ数ハ人のゝ数を 宇
けすんトハ損 ものさゝ 宇 こゝろ人ゝ「月志人」向ゆりく
トのゝどゝもゝふゝゝてゝゝたゝうゝゝたゝしゝゝたゝ物の
引抜 とゝゝくゝとゝゝさゝ歌見をゝんてゝたゝるのすんなく

ゝくゝとゝたゝそのゝゝ屋員をの世ゝゝ東ゝゝゝゝゝ
のまゝをゝてゝゝゝゝゝ

抽と敬 コウ 義さん〜。モシ。モシ。モウ 抽きゐ世て下さらく
抽なるの〜トゆりおこされて目を
ひらきの抽を〜ゐ〜 義 ケて〜ア一ト是ぶ。ゆう
まもあさモウ いて時ろう 乙 ますトいろ〜なオとサア 義 仮て
てう〜天ぢ〜ゆ サア〜モウ 抽ら〜 乙 ゐ〜ゐまモウ抽ろ糸
ふきゐ〜ゐ抽て
ゐ〜ゐ世〜 折ら 扇下ル 義 濡れ 丙 ハイ 松。義さんモウ〜
早の抽八全通ろ
ゐ〜抽め〜さん抽ゆ〜て世〜ますよ 義 ウ ニヤおゐも抽く
下ゐ〜〜抽ろ抽て〜ん抽ね 丙 イ〜トゐ〜ゐ抽ゆ〜下を
のゐき八ゐん〜 たまのゐ ちゐ〜ん ゐすふく

ゐ〜ぞ抽め〜ハゐんぐを世ゐが抽ゆ抽の抽ア抽ゐきんざ
抽八 抽きて抽り ゐんざ抽ますゐ〜ぷ〜ん抽抽ゐ〜ま〜ざ抽ゐ抽ゐ
わエトロを抽きて〜ゐ八ハ抽ゐ抽ゐ抽ハイ抽抽がゐろ〜ゐ
其伏ハ作者ゆヤ未詳
ざ〜ざ〜ますと ト言風を抽ゐ抽ゐきんバアリトゐゐと抽 乙 イ抽さ
のゐ〜ゐて
すゐわエを回義ゐ抽ゐ抽〜サアゐ抽〜コレゐんゐ抽ゐ
て屏風を片抽
のエ抽ますゐめ抽ヨ 乙 呑ゐんざ抽ゐ抽ゐ抽ゐ抽ハ
抽ゐ抽ませんぞ抽て抽め抽の抽ゐ抽ゐ抽抽義なる抽 義 コウ抽ト抽の抽さハ
抽ゐんぐふ抽ゐ抽ハエトゐ抽ゐ抽ゐ抽

と そんな雪消と付てきまんこ張るヨ 八 ヨヤあり久まし
〳〵 と そいつぬ世話ぢハつる 四 アイタ〳〵まぢ業も
くるわ立トまさ と ヨリ金さいてふトもあて抜くろんさふ
久〳〵 「夜」 ゆきまーいぢふとも表ろヨトたーぢたり〳〵表前ちを抱ゆをとーぐイ戸をあけ
と 抜さ〳〵ぢヨ 四一 ハイ抜ちうひ内トぐイ〳〵ぐ舟〳〵ずいのり
カ あぢの 表者 抜いとさ〳〵ぢ ハイごきぢんのふ 園 アイトたりを
八幡鐘 のゴヲンと共ふ寺ぐの鐘月落烏啼
て霜擬樹かの〳〵浦。雪月に吉ふ朝亜あれば

自尾と若ふする七ッ立ッうち。礦くし不酔を
表情思ぐ朝河岸と薄ぐ舟乃貴契。バカく
馬鹿のまりふ〳〵其へ傾城の心の内明乃鳥
と鶏と悪や了光や裏表。

△茶席乃客心ハロハ毎の生獨呑世ちくさ〳〵ちりもせち
穴をきぐり傾城をかくまり ちこなり 抜ジア遊びま
分ちと女郎と遊ぶ抜 えきたぐる風ちと 是ホの類ひかくくくくく
己がかくまり抜ちりようくくくく

△後唐イ国ニ三人一坐ハ行ヒ[illegible]ムヒ[illegible]ヒ
[illegible]自慢ス[illegible]生高ク唯通人ノ口[illegible]
[illegible]京ヒトノミ[illegible]
[illegible]延喜帝ノ[illegible]
[illegible]日髮[illegible]床ヒ[illegible]

盃遊び部

[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ

ぞ〳〵ぞく拙僧なすつくはやのせく 五 ゝゝさ
佛ハ法と賣。祖師ハ佛と賣人未世の傍ハ祖師を
賣る。法ハ五天のかゝぐと賣〳〵一切衆生の類脳
と賣人す。物ハ縁に紅乃色くらゝ〳〵小乃
同ゝのく月ハ通さどゝ留さ塩ゝのゝさぎ
ゝトゆゞらゝ地ゝゝゝ程ゝ安ゝさ思ゝすて考て
六 ゝゝゝ面白し。ゝゝ大ゝ程遠ゝぞゝくゝせゝ。ハ
ぞゝゝ道理先ゝゝゝのいゝさゝゝせゝゝぬぞ

ぞぜくす。モシ 先刻 さゝゝ麻ゝ新ゝ文天ゝ岸乃ゝゝ川ゝ
でゝゝ地ゝゝゝのハゝゝゝ

[illegible]ちく抽さ一 [illegible]いて[illegible]の人世稱くナンダごう
ぎふいそぐ〜しの[illegible]ヤ病家ヲ付[illegible]ぢ [illegible]
ようちやくきつい[illegible]れぎさ [illegible]
[illegible]
くぐひ合[illegible]中[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ぬ[illegible]の[illegible]切が[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
トワ〜いのぐら抽〜[illegible]

[illegible]コト抽と[illegible]さん[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゝゝゝ

は抑何わるく嫌ふ○「ゴロ〳〵」や火雲ふるとの陸さんれば男眞
大一番の男りいとこ
埋てはきるのう【ロ】ホンニモウアラウ程若男性の者ハれく
そこ〳〵浜の八徳を乗くいせバ抑くの猿丸も使ふこの
さんれどこんな丈物夏がも遠ふるのちやんのまつを
寄て抑くパラ〳〵ふくくくく成ゆとめ【ロ】去れさと
ざア【ロ】そもでハて抑【ロ】ゆ〳〵ひとい○「沢」と寄ぶ
復立さんと丈いちがりやざあ〳〵せ「わとつふ字い本編」
ふいムョきこ〳〵離くきざ陸る【ロ】今更抑一ヲ仔〳〵ふ

宴ざすのうのといつとざのあんでこせくすう抑くだうう
アとを新ふて「ゴロ〳〵」ひ世夏ををいろうう。ち〳〵い若男を
抑くうくこ抑をピ又船扇乃ちとピゥいるそるとちやち
おとも何といるれやせん一島小思ひるすのちや復も
さんうぴうとアと吹ゆせて成程ちまこ屋のいるえ
る通やこんざこうねとざのつくトいく移く抑くポりふ
いるふう今ちとと思ひ利てとざとあんまう去ぶねく
こんこう。ちい一同〳〵と抑ゆうく今更えひざる無ひ

こつさぶ。その彫物いけ〜やし〜と出そうてそだある松追れ
つぎあ打ふ　内始終両人ぐ入まり　傾り
ぶちのめさ〜へ　ぬ〜れさ〜かぎあ石
らんとあるとよごふさるて又ちきだされて人ぐ屋で立
まるよりーぐ此ハ　五　ア　見ヒ　あれ　ぬ　を　ぬきこ　ぬ　ぬ
さとぐ。むせくきてねエ　古狸めるぐ降〜ふぐ降〜ふぐ
内ら眉尾ぐ小女小彩へでてんだよごこそと椿ぐ
出てくるのを拭袋ハ内ふ拭くうへ。拭ぬもさんとてく
ぐ〜風〜かぬ女ふ弘市ヲ〜ぐ〜ふ〜ぬきれ乃何の拭意
ふあるぐ〜ちきぐ上り見愛の間を通ひさく見程を示
のろ〜見てまちやァよりぐ拭きをうときみ。ぐ
見ひぐ〜やいぐぐや新市場橋のぐ切遠ちさ舟の
内ハ新川名の客ぐといそ。ものの〜くる
そぐ。ァあいと乗りえハ記るやらぐぐ〜ぐれて
見をいるいくちあねエ兎角不孝乃だちぐこと
見ちくちきだされてあるめ女〜ときまいりの世ちぬ
仕掛のちちゆくかんあく　ちくらとあくらあわどち色
の見入だちと両方ちぬいてる。○一ちらい動を拭まくを傾り

文了邪見を計り 図 聲ふてたゝさん マアこゝいつ
ゝ一ぱいのわくさとゝゞんなめうあ〳〵てとゝやア一
言をゝゞせん トこゝゝゝゝゝゝゝ ゝゝゝゝ ○心ゞゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

つゝ[illegible]

せエ。そ[illegible]ら寝の[illegible]

ホ[illegible]

気[illegible]

せ[illegible]

で[illegible]

[illegible]年乃[illegible]

八[illegible]の浮世[illegible]

[illegible]

[illegible]

られて行つまずとちろく袖のとこすりぐ厚ぶうぐ歩くくすれ
あるる料理の横つくすぐ子めつくれをわぐ髪ぐうと上ぐうれをも
るるふふふちちとかりて天ぐ見ぐかめいト首とぐちろく
何をみくふえくすわア 三 アこれ是を取てくん打 云
むちうるサアぐうぐ堪忍して
横目でおろう
ぐまうて居る 三 抽ひあやアはあくぐ角ぐとくぐ猫
ちちーとぐふぐ納くくうなせく 云 いぐぐ 三 うなぐア 云
うせぐと 三 そうやアぐ長ぐ長ぐでぐぐす 云 長ぐで
うんぐでいやぐちいやぐちいとぐ横の方向ト横のうう 三 いうぐア
うちありて仕舞ふそんなふむれるとぐうとぐ

みるかくつうやせん 云 うつちゆる位のものぐうら抽
ぐのくつくくんせくう 三 エモ抽めくも書ッくどり
モウ見ちやどあやまくくらぽんくくんなこト何の
園果うくん打主ふぬくくれてもぐふやとぐくんなこと
抽めくぐトちちぐ歌と泪エいくそぐれてくれぐる
程ぐうやぐふくいぐゾョウト書うぐきくく折ふ 三 ぬくを
たくくと書ぐ書ぐと抽まくく情ぐるもぬ だうと
云 アくんなふ口癖ぐ 遠くくとぐくうんくーひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃八百くいまやみのせく 娘 ソレ 抑ぎのるよ 大ぜい アイ〜〜リ バイ〜〜リ

なるほど通り客 長五郎 そうハ二十七八中さまの色男めんうまぐろやと
の儀なるべ 客 長 らくの裏ア一ぢ感さのさうしゆのトゥ者ぢの半
ゐるとまちぐ感ゐるう一ぢ花ぐ感ぢとべくとの半ぢつり感と
もんぞ。の下ゥ呂袋ぢまたれみめ。ゐの乃三日月形のさぢこへホンかつの
くるおヲ打チ嵐や法乃きせるを乃ぐ乃ア大あぐ〜でいる人ぐゐハ
仕度師のかーらと月くて月代中 だく〜勇世ぢ乃のたぐさい細
いそふのさ乃チ平ゐぐ乃ぢ乃ハぢこの かくぐいや 丁 ぢ感ぢ
丁場ぢ乃ぢとほのきけぢ感ゐ風ゐ

公ぐぢくの猫ぢ世ゐるとこひ殺ぢめいきこゆぢとその
姫ーふうぢとれわ君ぢくみぎん 大ぜい ヤレヤア 長 サア一つの三
み 丁 ぢんぐ子ト ぢ抑ぢく 長 マアく〜ト盃と 丁 猫分で来

なきぢ。ぢぢ乃ハ抑ぢそいぢヤ抑ぢふぢ乃ぢ鯔ぢこいふぢ乃ぢ
うよ。ぢぢ乃ぢ抑ぢうぢ乃ぢ男ぢイヤ ぢる乃ハ 他ぢめぢ乃ぢ乃ぢ
ぢぐぢいみ〜抑ぢ上ぢこいふぢ乃ぢ。ぢこぢぐぢ乃ぢ抑ぢ有。 何ぢ乃ぢ乃ぢ乃ぢ
ぢ抑ぢ乃ぢ〜抑ぢ乃ぢ乃ぢ代ぢ 丁 ソリヤア ぢんぐ さ 千ぢ乃ぢ
ぢる代ぢ 丁 ヨヤ〜〜 大ぜい 笑ぢふ さ ぢん乃ぢ抑ぢ乃ぢ上の乃ぢ乃ぢ。カノ
ぢぐぢ乃ぢ乃ぢの乃ぢ乃ぢ乃ぢ

さ ドリ〳〵拍子 つ コヤ〳〵拍子 ち ナニ申めと拍子 さ ナニ申めと拍子

ざめとこエ ざんゑト姿 ち 遠ゆきまんゆき つ 寄り目

こちやあやまりまとれ エ さ コヤ〳〵ハ大をれさ長

りんゑくやらうこんぴら ち 又拍子内唐人 さ

ヲヤト夫ハいろどかこぶ つ ハ〳〵ちられ ち コウ

さうこめ山 湯島の附ふらこのふつをかつ拍子

のこそこの内振ハ二丁所 ち イヤ見ぶまを

鶴亀ゆるくばいりやの初ごにさゆくあれぶでと拍子りあればこてふ

男ち △ヲヤ はちこをハつぎざあ伝ちあ三陸ゆくく 所五の化生

三人 さやこの〳〵拍子 つ モシ拍子きんハ呵でこぜ

〳〵まこと ち こそ又ふらくぶ つ 〳〵エそこやおさこまこぜ

まちふ さ モシこそく女ハまぶはきますすすてせうゆゆて

ち ちんゑ休拍〳〵 ▲ 式客一酔二面ハつるゆれさをしゆ

ゆくめんくこのりのやうひ或ハやこ

して内乃目とこのめる ち 拍子 拍子ゆこ

○かくて八幡乃いつあひこぎ

わくくの声ぶ アこの ちこさ

ちやこ乃ゆゆ縄こかぶゆき

ゆらぶて耳ひこをとりゆとれハ

ぐんで 喜めま 金せ 娘ゆこ乃拍子れ

ゆ ハ声を 縄と 民ゆこ

[illegible]早[illegible]この床[illegible]ハ極[illegible]安[illegible]よりも
納[illegible]五[illegible]番[illegible]本カラク[illegible]ナゼ。[illegible]ひりんぐ[illegible]ゼ[illegible]ゼ[illegible]ゼ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ゼ[illegible]ゼ[illegible]ゼ

るゥてたゝみれやきわェぴゝつぞやと行やうやゝのんまを教
さらばいつそ気ろぐ西くゝあつさから男るゝとなてうゝ
で指中ゝそゝふとるゝ髪の内と結みんのゝのとゆゝみゝ
ちゝみもゝく行乃とも思ハねゝなぜゝ今ふたゝ孫ゝ中ゝ倫
ふ付てゝ山ハ一日をあゝくれゝさんぐゝあゝねゝまゝゝと便ふ
みゝのハ地きさん斗りゝみゝなのゝよハ兄弟ゝゝ云ぐゝら
いゝと情あゝゝ図ハ娘ゝ
いやゝてめゝらゝもわゝぐゝ図ハたゞごと吸付みゝら面痛みゝと
ゝとゝとめゝゝとゝゝさゝぐゝやてゝゝゝ孫ゝとゝゝゝ世ゝゝだゝゝぐゝゝゝ
ぎ乃霧廻ゝゝ。女ゝゝの有ゝゝ古ゝゝゝハべゝゝゝ単ゝゝ
かやゝゝ牛。角ゝゝゝゝゝ女ゝゝゝゝゝの盛と乃世てゝゝゝゝゝゝ
図アレサ大きゝゝゝゝゝゝ

きゝ様く【ヒ】そこるゝをつとゝぶが呑ものゝ【ヒ】それふつゝて
たゝみがつゝとつはゝ掛めくゝたゝつてるフレ新川乃客人の【ヒ】
ぶゝ【ヒ】ゝ【ヒ】ゝ【ヒ】

じやねへう 長 アリヤア ふぐ人ぶぐ 豆 そーくまぐ ろくにんぶ
うら寄る客人ぶもちろ ちとだうりつて 抽くぐコリヤア ぐーくもし
初仕義の客ぐうちちつと ちおくひ 長 てくぶいく ろるが
かくつさナ何うちちこ 毎ぐう。高まめ人 今ぢ寄ア 何ぐのる
豆 分員ぶ人ぶやア 何ぐのるぐ。ぶ三 おめへかくさんの 病ぶ、
はぶぐぐ 長 まぐ よへくぐア ぶ三 はぶ 食の 病き
ぐうら。一ぶ人ぐ 抽ぢ ぐワへ 豆 おまんまぶ 抽ぢんる
ろるぶ三 長 ちちつと ぐ 喰るぶ 豆 ぶぐ ぢやねへ

あめくもちつと気をはけなぶ。関ぶ 徳 紙付ておきさ
みする 長 ちひぐアとてを抽入ぐ ろくさうら下場
へ出ぶ寄ア 瘡とりいてる 畳 高 兵 や。建おうらおぐち
さ弄ぶ 何角ぶ あてぐつく 寄うらぐ ぶでろくなぶ
ちねへのさ 豆 丈ぶやアさんぢう 寄ぐ付めへのぶ 長 十二
負うつをんう。ろるぢぐ人 豆 紙ぢや 湯と 喰ふこと
ぢうう 考てうア 豆 ろれぶ ぶいてをよく抽めへの 亟
りてくョこんる 時ぐ 女房の 保ぐのぶ 何をうつをを

金ふかうれる所はてらちゑぐくの仕程をねぐ心を
私やア実のうさんのつづらふうハ気そうるの為
るゝねエ。なのちちとうちと思つて凡そ。拙めくもチット
拙さるゝくるんなさらねきやアさ西程ヨ【ち】て拙れも
棟梁でとちゑ年ふ【ど】アしてそふいくバそんるぬひエとを
云ふそる何も夫程イせきどとといハる【も】てあくが
そんなふあんでて呉るふ。拙ゝアらう程不孝とんぺふ
此ハ拙れが気でをつまゝねゆゆざァいつそ。ふく

死がまゝぐらふ【ど】そうしてどうんるエとを
思つ世ぺふ常ふ拙さてのぬれさ義と思るヨ書を
ちぐくちるる【も】アぬさいぐくぷさぬ乃実や赤蛙ざ拙れも
モウ拙侵が世ちさくらぷ。ふく〳〵の世て見えて【ど】きげんと
そふいさぷいるんるん人ぐ来てぷんるうう有ぐらくの
【も】何のきふいとぐれいとぐ拙ぷんぷ造先とこハぐつく。拙ぷうかア
ふるのをるのんぷ。眉間三寸ぞびぐちぬぶんぷ西えぐの。出
双庖丁さぐぐてう後とちぐるのとうとハ別こふ

みつちやア屁をとろかねくアモウ わらふ 【ヒ】ホシニ 陽ラフ
みのを酒食のうを毋ごのんでさよいつる 稲くらつてこぶ 蕎
日みつ乃にハぶふくぶたまさ 【ヒ】ばいつる 【ヒ】頼とのそ ヨヤ
物めく稲みをるう。そをみせくし せををを ほめりる 【ヒ】 毋ヨ
ゆへ屋親ちぶ ぶてぶ方の毋ちぶ 毋毋 毋さ
ちつ夜一夜 ちつ部てく稲れヨ 【ヒ】いもぶョ 青のわくまぶ 嗜ぶ
有ぶちつ。稲ちくやア毛わ くトゆとぶれどもまやくとをている
ちいろくくく 模 稲ちぶ毋ちる 【ヒ】コレ 物ぶまりくちつと稲ちて宜

今夜ハ毋ときくア 【ヒ】毋ヨ工屋ガ あるつ又ちつち
ちぶちぶらう 【ヒ】毛まてちつと 【ヒ】丈ぶちつ部
稲ちき稲く 【ヒ】ちつ毋ちぶを 物て みつち
トちちを向ひて脊中合 船頭 ハイ お迎ひぶ
ちちとちる乃を早四ツの後 ぶぶりまて

朝直乃部
霄泊乃部

遲而後編ニ生ス後ハ
撮向ハ出来ないまでセテ數年ヨリ乃ハ不著

作者曰

予おもふ所あるとかんがへるを以て定く本所遠〻の
所につまを求めて自印青紙の[illegible]を刷毛書
乃水油有りの障子を立てる九尺店のろじに
本道外科と書く畫くる医者の表札さえ
あるくの[illegible]典を書き雨酒とるあり高家
蔭乃棟割りの蛇の這出る所一元入やさえ
紙格子にどうで大なれ用心鰐をい藤の鏡貴
向ふの神道有ふ庭はえうち坊主の本奥
花壇の大お笠と朝顔と軍〻神儒佛
紙屋の大長屋に住む親仁といえるハ
屑ワイくうるれ日を送り夜ハなるすぐら

あでん白菊塩揚のーと内乃二面ハあんん
コろく母親乃債仕妻をお元荒神さま
のアやのまうの間を見合せいとまるる時ハ
めまらたんん切大こうたーとにろうかたや
南京小紋ミ鳴海絞りのつぎく油揚のごき
をーーぺろうどうやのけつさんのりつる醤油を
古文書文の練袋ふとを磨きけ小むとあ
なるーヒナ五といくる主妻のハ親こうち風の
ろうーー終ふハハ今ろうかくるを柿成長く
知らうとの茅を編紙乃二布綿く
さらくどもしいく雪素とうーらいどと

先づ暑くる新しの傳ふる話所の鳥の樂
と廣くて。かくる貧困の使者小實情を
さと。見せなる。兆かくる。鳴呼見兆をれく
實や。色ハ思案ハ外ふいくど。遂ておとりよ
を。悟るくいつと。色道の徹不徹千
了依をも。世家代通暑よ。ソレ
さんくおこるん

石場妓談　辰巳婦言　大尾

跋

或人戯作の力但て。古石新石を磨
見くを。新しく。小樣く。土頭と和と。僅石か
ごと玉。ふせくと。雑砂くてる。磨鏞も
ちく。降授くく。床ぶふ。沈ぶ。さのぐ
同夫ふくを。貧情ふ。平人石をを
壓石を。夢人下コ（ヨ）ヨコーリキ（マカリキ）ち。古なぐ。方言

能面に合る。鶴ゐる石の蹲るうと疑の真
の姿乃かげて、八幡宮の石の玉ゐ、髪乃
餘乃風流なり。赤松仙の羊のゝ際の行
方も世に東一部の硯もふ。稱りて龍
を折振り、皇野暮ゝとてるゝとゝ面色
ゆゝとゝ和、五十五貫目。内一巻中ッ腰ゆ
ちゝて寛ちゝの。
純ゝ高子自人祭和摘述

羽根ゐゝゝ百增の櫛牙魂と共み厚歴
み巻びゝ日巻りて癡夫克傾城とゝのゐす
と、是錬術ゆ徳ゐん。這箇先生ぶゝ
燈ゆ光と入ゝ。ゆみ巻の日續と探ゝ。
ゆ言の麺向ゆかゝ道。ゆゝ辰巳の石
と真面ゝ。其酒落ゝ寛。新地の端ゆ摘杭

丹等すべく序又は書ゟ一座ゟ加チヨビを
却ゟ跋文と徳ゝ即三馬子贈ナス
愛

式亭門人
樂山人馬笑

辰巳婦言
後篇
通俗通
近刻小本一冊

傾城買嘘ゟ情
近刻一冊

内海小田氏記
U5463